

西はりまの人間学やろナー
令和三年七月十四日(水)

平澤興 先生の言葉に学ぶ

平澤興一日一言



1月 1日 新年

生きるとは
燃ゆることなり
いざやいざ
進まんこの道
わが燃ゆる道



生きるとは燃ゆることなり (1月1日)

生きるとは燃ゆることなり

平澤興

昭和三十九年十月

天を拜むとはこの無限に
頭を垂れて徹底的に
之を追及し、その不
思議に驚き、これに
眼が覚めて、讚美と
感謝の心で萬物に
手を合わせることである

天を拜むとは、
頭を垂れて徹底的に
之を追及し、その不
思議に驚き、これに
眼が覚めて、讚美と
感謝の心で萬物に
手を合わせることである

米寿之学徒
王山 平澤 興書

1月 2日 拜天 拜人 拜己

私はここ数年来、天を拜み、人を拜み、己を拜んで生きている。天とは最初、命を与えてくれた大自然であり、人とは日々の生活で世話になつて居る方々であり、己を拜むとは自分自身を拜むことである。

1月 29日 万物が有り難い

普通の人は数の少ないもの、珍しいものなどをただ不思議だとか、有り難いかいだが、それは見方が粗末だからです。いかに、数が多くても、尊いものは尊く、不思議なもの不思議なものです。

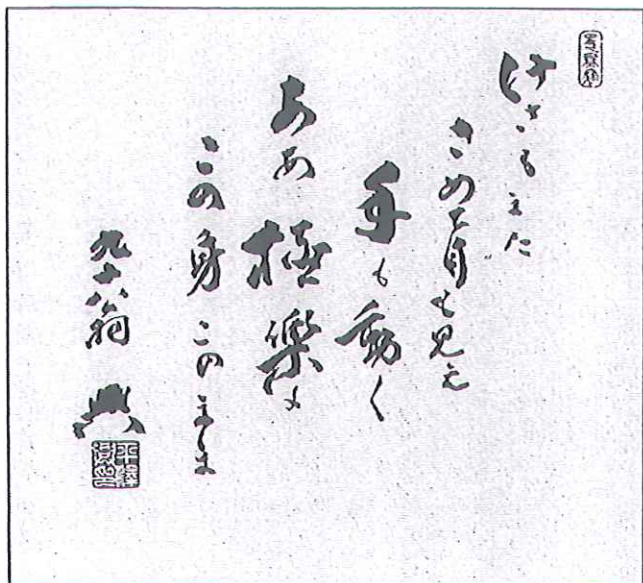
しかも学ばば学ばばほど、知れば知るほど、いよいよその不思議は多くなるばかりです。そうなると、万物が有り難く、拜まずにはおれない気持ちになります。

1月 4日 学ばば謙虚に

真に学ぶとは、賢くなることなどではなく、むしろ自らの愚かさをしじみと感じることであり、それだけに、学ばば学ばばどいよいよ謙虚にならざるを得ないので。

1月 3日 平凡の中の不思議

およそ世の中に目が見えぬことも、無事に太陽が昇ったことも、今無事に心臓が動き、やすらかに呼吸していることなども、一見平凡ではありますが、実は未だに完全には解き明かすことのできぬ不思議がその奥にあるのであります。



5月 28日 心の花

せっかく人間として生まれてきたのである。ただ外の花を楽しむだけでなく、自らの内に咲かせる心の花をも楽しもうではないか。

5月 29日 人生をつくるもの

修養と人生、仕事と人生は一つである。人生をはなれた修養はない。また仕事をはなれて人生はない。

1月 24日 1%の感動と九十九%の汗

「天才とは努力だ」と昔から言っておりますが、全くその通りであります。発明王のエジソンなどもそう言っております。天才とは何か——七十の誕生日に、世界の新聞記者が集まって彼に聞くのであります。「天才とは何か、発明の秘訣はあるか」「いや、発明の秘訣なんかない、秘訣はない」と答えますが、どうしても新聞記者は帰りません。それで、彼は、「天才とは1%のインスピレーションと九十九%の汗だ」と言うのであります。

これは、発明の秘訣はないということと同じですね。1%のインスピレーションぐらいだったら誰でもが持っています。だが、それを、実行するだけの燃える情熱を持たないのであります。「天才とは、1%の感動と九十九%の汗だ、つまり、実行であります。」

Genius is one per cent inspiration
and ninety-nine per cent perspiration.
(Thomas Alva Edison)
(1847-1931)

(11/8)

けさもまた

さめて目も見え

手も動く

ああ極楽よ

この身このまま

九十翁 興

8月 31日 天地の恩

生かされて 生くるや今日の
このいのち
天地の恩 限りなき恩

5月 31日 いかに生きるか

人生は にこにこ顔の命がけ

12月 5日 心の長生き

長生きはただ身体の長生きだけではなく、心の長生きも伴わねばならぬ。だれにでも喜ばれる熟した味と香とを身につけねばならぬ。

老人にとって最も望ましい姿は、そこにおろることが自分に楽しいだけでなく、周囲の人々にも明るさを与えるような生き方である。

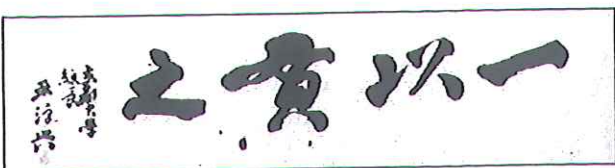
2月 12日 偉大さとは

偉大さとは、日本とか外国とかを問わないで、本当に自分に誠実に、社会に誠実に、世の中のためにどんな小さいことでも結構であります。あるいは自分の仕事を通じて、世の中に喜びをもつて奉仕をしようという人、誠実な人、あたたかい人、それは別に世の中で有名にならなくても、そういう人こそが本当に誠実なのではないかと思えます。

2月 13日 ベートーヴェンの偉さ

ベートーヴェンは偉い。その偉さは、どういふことかといえ、彼がその全能力、彼の全情熱を注いで、自己の芸術のために、音楽のために全生命をささげたということでありませぬ。

全情熱をささげるといふことは、もっと具体的に言うなら、百四十億の神経細胞が全部燃えるような努力をするということですよ。



一貫以之 (9月13日)



勲一等瑞宝章受章 (昭和45年)

12月 1日 人生は八十から

本当に人生を楽しむのは、八十歳からである。
この年になって、がっかりする人と、新しい人生に燃える人が出てくる。

12月 26日 心の化粧

私は実は神経の専門であって、同時に表情筋肉の運動と神経が私の本当の専門であります。したがって、顔も私の研究材料の中に入っているのです。美しくもつまらん顔があります。そして、いわゆる世間的に美しくはないけれども、誠に素晴らしい顔があります。

11月 30日 八十路の旅

あな尊と 不可思議光のこの命
八十路の旅に 欣喜雀躍

11月 28日 磨けば磨くほど

切角尊い人間に生れたのである。何とか頑張れるだけ頑張り、自らを生かして命の限り前進しようではないか。
人間はまことに不思議な存在で、磨けば磨くほど光るのである。

10月 31日 教育の真髓

尊敬している先生の許に長くおると、自らは先生のまねをしているとは思わぬのに、いつの間にか講義の口調から歩き方まで、先生そっくりになることがある。そういう実例は私なども数多く知っているが、まことに不思議なことである。
おそらくこれは心から尊敬しているような場合には、無意識の間に外面的及び内面的の模倣が行われ、自らは知らないが長い年月を通しての努力があるものと思われる。令せずして行われ、無為にして化すこの教育こそは、まさに教育の真髓であろう。

11月 7日 美しい人生

美しい人生、理想の人生とは、今日を最も美しく人のために生きる事である。地位も金もそんなものは大したものではない。人間はひと時の旅人として、この限られた時を、美しい心で少しでも人のために生き得れば、充実した人生であり、生きがいのある人生だと思う。

11月 29日 一生成長

生きる限り、成長することです。
あらゆるものに感謝し、あらゆるものを拝みながら、伸びることでしょう。

10月 21日 徳は力

漢語の徳にも、辞書によると、やはり働きとか、能力とかいう意味もある。たしかに徳は力であり、得にも通ずる。「徳孤ならず」ともいう如く、徳は求めずして人心を集めて力ともなり、おのずからなる不思議の力を持つものである。

11月 9日 座右の銘

常に人たることを忘るること勿れ。他の凡俗に倣ふの要なし。人格をはなれて人なし。ただ人格のみ永久の生命を有す。

常に高く、遠き処に着目せよ。汝若し常に小なる自己一身の利害目前の小成にのみ心を用ゐなば、必ずや困難失敗にあひて失望することあらん。
然れども汝もし常に真によく真理を愛し、学界進歩のため、人類幸福のため、全く小我をすててあくまで奮闘し努力するの勇を有さば、如何なる困難も、如何なる窮乏も、汝をして失望せしむるが如きことなからん。

真の大事、真に生命ある事業は、ここに至ってはじめて正しき出発点を見出したりといふべし。

進むべき、道は一筋、世のために
いそぐべからず、誤魔かすべからず

(大正十年元旦平澤先生二十一歳の時の座右の銘/原文ママ)

10月 20日 徳と男らしさ

英語では徳はバーチュー (Virtue) であるが、これはラテン語の男らしさ (Virtus) から転じて来たものだとのことである。男らしさといえは、まっすぐでかけひきがないとか、裏表がないとかいうことが第一に考えられるが、言葉の構成の経路がちがいながら、まっすぐな心、直心というところで発想的に共通の点があることは、面白い。

9月 21日 徳という字

徳の古字は恵で、徳のつくりの恵はこれを書きなおしたものであり、この恵にイ(ぎょうにんべん)をつけたのが徳という字である。イは左脚のもも、すね、あしを表し、行の予は右脚のもも、すね、あしを表すもので、イにはたまたむとか、少し歩むなどの意味があり、また行のかわりにもなるとのことである。すなわち徳という字はイと直と心とから成り、その構成からいうと本来まっすぐな心、すなおな心で立つとか、行なうとかを表すものである。

3月 22日 恩という字

「おん——恩」という言葉を辞書でひくと、「めぐみ」「いつくしみ」とか、「目上の人から受けたありがたい行為」「目上の人がかかる情け」などと説明してあるが、しかし、表意文字としての漢字の「恩」には、本来もつと深い意味がある。
「恩」の字は、上の「因」と下の「心」からできているが、因とはもと、原因とかいうことで、恩とはものごとのもとのこと、自らの今日の姿のものを知って、これを心にいただき、ありがたく思うことである。